新聞 【新聞定価1カ月4,037円(本体価格3,736円+消費税299円)】1部売り(消費税込み)朝刊140円 夕刊50円 (第3種郵便物認可)

在日新世代
日韓国交正常化50年
上

# 祖父の歴史 勇気に

## 「自力で生活切り開いた」

1950年ごろに撮影された色あせた集合写真。「祖父母の青年時代です。祖国にいる親族らに伝えようと、毎年、写真館で撮るのが習慣だったそうです」。在日韓国人3世の趙顕佑さん(33)＝大阪市生野区＝が約80年前に来日した家族の歴史に思いをはせた。

奈良県橿原市で2世の両親の間に3人きょうだいの長男として生まれた。表札には日本名を掲げ、家族同士の会話も日本語だが、「うちは外国人なんや」と聞かされて育った。小学校6年の時、両親から「これからは本名を名乗る」と告げられた。

1世や2世のように、露骨な就職差別や在日外国人に義務付けられていた指紋押なつは体験していない。それでも友人から「3世なら日本人と同じやん」などと言われるたび、「選挙も行けないし、本名を名乗れない人もいる。世間と同じようには生きられないのに」と壁を感じていた。

アルバイトをしていた20代半ば、カンボジアでボランティアをしていた友人を訪ねるため初めて海外を旅行した。同世代の韓国人旅行者と片言の英語で情報交換をし、「ルーツの国の言葉が話せるようになりたい」との思いが募った。

韓国語を学ぼうと通い始めたNGO「在日コリアン青年連合(KEY)」(大阪市)で昨年、1世の聞き取りに参加した。ヘイトスピーチや歴史認識を巡る日韓の摩擦が高まる中、個々の歴史を残す意義に共感したからだ。「昔の写真ってあるの?」。実家で父方の祖父に尋ねると、押し入れの箱から写真を取り出し、昔の話をしてくれた。

祖父の鳳濟(ボンジェ)さん(85)は釜山近くの農村で生まれ、生後まもなく父を亡くした。日本統治下の生活は厳しく、3歳だった1932年、母子2人で海を渡った。母と再婚相手との間にできた5人の義理の弟や妹の生活を支えるため、養豚や水あめ製造など生活の糧を求め働いたという。「食うてくため何でもしたんや」。写真を懐かしそうに見つめた。

聞き取り後、趙さんがまとめた家系図には、鳳濟さんの祖父母の世代まで36人が刻まれている。「自分は苦労して生き抜いてきた人たちの子孫だ」と実感する。

今年4月から、大阪市内のイタリア料理店で、初めて正社員として働いている。朝の仕込みから閉店後の片付けまで仕事はきつい。それでも自分の力で生活を切り開いてきた祖父の歴史を知り、「後押しされているのかもしれない」と思う。

KEYの今回の調査では、趙さんら3世の青年が親族の1世ら7人の歴史をたどった。スタッフの金和子(クムファジャ)さん(34)は「民族としてだけではなく、個人の歴史を受け止めることが、アイデンティティー確立につながる。結婚や就職など見えない差別も残るが、朝鮮半島にルーツがあることを前向きにとらえることが、在日の力になるはず」と信じている。【田辺佑介】

◇

日韓の国交正常化から今月22日で半世紀。法務省の統計では、中長期にわたり日本国内に在留する在日韓国・朝鮮人(特別永住者含む)は全国で約50万人。関西2府4県にはその約4割が居住するとされる。ルーツを大切にしながら次の50年を生きようとする在日コリアンの姿を追った。

家族や親族の写真を前に思い出話をする(右から)趙顕佑さん、祖父の趙鳳濟さん、祖母の金順心さん＝奈良県橿原市で、山崎一輝撮影

**日韓国交正常化**

1965年6月22日、日本と韓国が日韓基本条約に調印し、両国の国交が正常化した。同時に、終戦以前に日本に渡り、52年のサンフランシスコ平和条約発効で日本国籍を失った在日韓国人に永住資格が認められ、その後、朝鮮籍登録者も対象に加わった。